

1. 略歴

- 1982年 3月 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
- 1984年 4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学）
- 1987年 4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学
- 1988年 10月 パリ第12大学博士課程（～1991年9月）（フランス文学、フランス政府給費留学生）
- 1992年 3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程退学
- 1992年 4月 東京大学文学部助手
- 1994年 4月 白百合女子大学文学部専任講師（フランス文学）
- 1997年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（フランス語フランス文学）
- 2010年 4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（フランス語フランス文学）

2. 主な研究活動

a 専門分野

フランス近代文学。

b 研究課題

- (1) ポール・ヴァレリー研究。「夢」というトポス、断章という形式からの検討。
- (2) クレオール文学研究。エキゾティシズムとは無縁の、活力にあふれたその作品美学の研究を、セゼール、グリッサン、シャモワゾー、コンフィアンなどの作品読解を通して進めている。
- (3) 20世紀フランス文学における散文の研究。小説全盛の19世紀とは異なり、20世紀には、詩的強度を備えたさまざまな散文作品が書かれるようになった。とりわけ、時間意識、夢と覚醒というテーマ、イメージの活用法、さらに人文科学との接点という視点から、その特質の一端を捉えようと試みている。

c 概要と自己評価

(1)については、長年の課題として研究を続けている。昨年、「夢」というテーマをめぐって、ヴァレリーを出発点に、ブルースト、ブルトン、サルトル、バルトを比較検討する本を出版した。ヴァレリー研究は、これまでにない精度をもった伝記やさまざまな書簡が刊行され、作家ヴァレリーの研究という点で新たな展開を迎えている。その成果を参照しながら、「夢」との関係でしばしば問題となるヴァレリーの「犯罪」幻想を扱った論文を執筆した。

(2)については、グリッサンの小説・評論の翻訳を現在準備中である。また、クレオール文学を日本語で訳そうとする時に生じる問題について、論文を発表した。

(3)については、現在、20世紀文学と人文科学の境界を探る研究会を開催、人類学、フィクション論、精神分析、現象学の専門家のお話を伺いながら、早稲田大学・鈴木雅雄教授とともに、知ることと作りだすことの境界を問う作業を行っている。この試みを今後も継続し、新たな文学概念構築の手がかりを掴みたいと願っている。また、ウィリアム・マルクス教授（コレージュ・ド・フランス）の著書『文学との訣別』の翻訳を刊行した。これは18世紀から20世紀にかけて、文学が社会において途方もなく高い地位を獲得した後、その価値が下落して、現在では当てにならない書き物という評価を得るに至った、その変転の根本にある考え方を分析した本である。

d 主要業績

(1) 著書

三浦信孝・塚本昌則編、『ヴァレリーにおける詩と芸術』、水声社、2018.8

単著、塚本昌則、『目覚めたまま見る夢——20世紀フランス文学序説』、岩波書店、2019.2

(2) 論文

塚本昌則、「放心の幾何学——20世紀フランス文学における眠りと夢(5)——」、『思想』、no 1130、116-137頁、2018.6

塚本昌則、「ヴァレリーと犯罪——カトリーヌ・ポッジと「奇妙な眼差し」の形成について」、『愛のディスコース——ヴァレリー「恋愛書簡」の詩学』、森本淳生・鳥山定嗣編、水声社、217-238頁、2020.3

(3) 書評

「2018年回顧・外国文学（フランス）」、『週刊読書人』、2018.12.21

「2019年回顧・外国文学（フランス）」、『週刊読書人』、2019.12.20

(4) 学会発表・研究座談会

国内、Masanori Tsukamoto、《Le support de la lumière : une théorie virtuelle du cinéma chez Valéry》、Le cinéma des poètes、東京大学文学部、2018.12.15

国内、Masanori Tsukamoto、《Que veut dire “l’usage littéraire du langage” ? - La parole à l’état naissant chez Valéry et chez Merleau-Ponty》、Merleau-Ponty devant Valéry - le cours au Collège de France en 1953 : 《Recherches sur l’usage littéraire du langage》、東京大学文学部、2019.3.27

国内、箭内匡・鈴木雅雄・塚本昌則、研究座談会『文学としての人文知』第1回、「〈イメージの人類学〉をめぐって」、東京大学文学部、2019.7.1

国内、久保昭博・鈴木雅雄・塚本昌則、研究座談会『文学としての人文知』第2回、「フィクション論の現在——ジャン＝マリー・シェフェール『なぜフィクションか?』をめぐって」、早稲田大学文学部、2019.11.21

国内、立木康介・廣瀬浩司・鈴木雅雄・塚本昌則、研究座談会『文学としての人文知』第3回、「無意識と文学」、東京大学文学部、2019.11.21

国内、塚本昌則、「ヴァレリーと犯罪——カトリーヌ・ポッジとの往復書簡と1920年代の変貌」、京都大学人文科学研究所、2019.12.21

(5) 啓蒙

塚本昌則、「ポール・ヴァレリー、セツとジェノヴァ——地中海を旅する想像力」、『フランス文学を旅する60章』（野崎敏編）、明石書店、236-240頁、2018.10

山本貴光・塚本昌則（対談）、「これからの文学問題」、神楽坂モノガタリ、2019.4.19

野崎敏・塚本昌則（対談）、「夢の交歓」、神保町ブックセンター・岩波書店、2019.5.23

(6) 翻訳

個人訳、William Marx、"L'adieu à la littérature : Histoire d'une dévalorisation XVIIIe-XXe siècle"、塚本昌則、ウィリアム・マルクス『文学との訣別——近代文学はいかにして死んだのか』、水声社、2019.3

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会会員

(2) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

日仏会館フランス語コンクール審査員